

文楽 Bunraku News 応援団通信

文楽
応援団通信

第32号

2018. 1. 3



せっしゅうがっぽうがつじ
『撰州合邦辻』

文楽応援団ホームページ

<http://bunrakuouendan.web.fc2.com>

文楽応援団ツイッター

<http://twitter.com/#!/bunrakuouendan>

文楽応援団

検索



QRコードはこちら



HP



Twitter

文楽応援団の自己紹介

Issued by Bunraku Ouendan

文楽応援団は文楽の普及・振興を目的とするボランティアのグループです

おもな活動内容は

- ①文楽公演のポスター・ちらしを配布
 - ②資料展示室における展示品の解説
 - ③観劇のグループに公演のあらすじや見どころ聞きどころを解説
 - ④劇場外での普及活動(文楽の楽しみ方などを解説)等々です
- この他、文楽に関する学習会や懇親会なども行います

新規団員を募集します

文楽の普及のために、一緒に活動しませんか

- ・国立文楽劇場の友の会会員であることが必要です
- ・「募集要領・申込用紙」は平成30年初春公演展示室での解説時間中に応援団員にお声かけください
- ・締切は平成30年1月25日(木)です



ろうべんすぎのゆらい
『良井杉由来』

『六代目竹本織太夫襲名』

豊竹咲甫太夫 改め

六代目竹本 織太夫



本年は、私の恩師 豊竹咲太夫の亡父・八代目竹本綱太夫の五十回忌にあたります。咲太夫師匠は孝心深く、かねてから八代目綱太夫追善の興行を希望されていました。そして、綱太夫の前名である織太夫の名跡を再び世に出したいと願い私に勧めてくださいました。

私にとつては大変驚くことではありましたが、この度、文楽協会ならびに日本芸術文化振興会のご支援を賜り、諸先輩方のお許しを得、ご臈肩皆様のご後援をいただきまして、初春文楽公演よりおこがましくも六代目竹本織太夫を襲名させていただきますこととなりました。

なお、初春公演の初日・一月三日は、八代目綱太夫師の誕生の日であり、亡くなられた日でもあります。六代目織太夫を襲名させていただきます

本公演の初日を四代目織太夫（後の八代目綱太夫師）の祥月命日に迎えられることは先師の前名を相続する者として心より飲んでおります。と共に師匠への感謝の念を禁じえません。

また、昨年は襲名のご報告とご挨拶の機会も多く、今までに増して皆様に支えていただいていることを再認識する年でもありました。

六代目竹本織太夫襲名披露行事実行委員会という会が発足され、十二月二日には、大阪ミナミの商店街をご挨拶して練り歩く「お練り」も行わせていただきました。

ご挨拶まわりでは、ミナミの商店街の皆さまや高津子ども文楽の関係者の皆様方をはじめたくさんのご協力をいただきました。

初春公演では文楽応援団の皆様のようにずっと文楽を見守って下さっている方や今回の襲名で新しく興味を持って下さった方、いろんなお客様にお越しいただき、多くの方に織太夫の演奏をお聴きいただきたいと思っております。

歴代の織太夫の芸に自分を近づけ、綱太夫・織太夫の紋「抱き柏に隅立て四つ目」に恥ずかしくない舞台を勤められるよう、身を捨てて浄瑠璃に立ち向かい、全身全霊で精進する覚悟でございますので、何卒、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

「やっぱり文楽はやめられない！」

其の二十七

『文楽つて』

油田 悟

文楽つて、取っ付きにくいですがね。

私も最初はそうでした。太夫さんが何を言っているのか判りにくそうだし…。ちよつと敷居が高いという感じでした。青春時代に映画「心中天網島」を観た時も、文楽人形がクローズアップされたシーンがあり、何か面白そうだなとは思ったのですが、なかなか文楽公演を鑑賞するまでには至りませんでした。

そのままの状態で四十年、還暦を迎え時間に余裕が出来て、妻と「一度ぐらいは文楽も見ておくれ」という軽い気持ちで本公演を鑑賞しました。

演目は因縁の『心中天網島』。衝撃は後半にきました。道行場面の最初、外で紙屋治兵衛が待っていて遊女小春が家から出てくるシーン。これから二人で心中しようと言う局面です。引き戸が音を立てないよう

にゆっくり開かれていきます。そして客席から小春の指だけがちらっと見えた瞬間。その指の動きの色つぼさにズキーンと胸を撃たれました。ヒロイン小春のいじらしさや可愛さはもちろんのこと、人形がこんな色つぼさを表現できるとは！

静止している時はただの人形なのに動作を加えるとこんなに表情が豊

かになるのですね。文楽という古典芸能の素晴らしさと完成度にショックを受けました。

それからは、文楽にのめり込んでしまい本公演を毎回鑑賞するほど。今では鑑賞だけでは飽き足らず、くずし字の丸本を書き写したり、また背景となる江戸時代の文化全体に興味を湧いてきて当時の生活様式や人々の考え方なども勉強するようになりしました。

どんどん趣味の範囲が広がって、退職した後も時間を持て余すことはありません。こんなに人生を豊かにしてくれる文楽つてステキだなって思います。感謝、感謝です。

文楽つて、最初はなかなか手強いけれど何度かチャレンジすれば奥の深い素晴らしさを感じられます。例えば、くせの強い鮒ずしやブルーチーズのようなものですね。はまってしまおうと病みつきになってしまいます。

「やっぱり文楽はやめられない！」



集めた床本と丸本

『五代目吉田玉助襲名』

吉田幸助



この度、平成三十年大阪四月公演、東京五月公演にて祖父の名跡である五代目吉田玉助を襲名させて頂くことになりました。

これも皆様のお陰だと心より感謝するとともに、厚く御礼申し上げます。

人形部座頭である吉田簞助師匠には襲名の意志をご相談させて頂いた際、大きな力で背中を押して頂き大変お世話になりました。

祖父である三代目吉田玉助は戦後間もない頃からの文楽を支え、昭和四十年に亡くなるまでの間、主役級の立ち役の人形を遣ってきた芸の大きい人形遣いだったと聞いております。昭和四十一年生まれの私はすれ違いで、祖父とは対面することなく記憶にはございません。でも、文楽の世界に入ってから諸先輩から「お祖父ちゃんは凄かったんやで。」「こんな芸ではお祖父ちゃんが泣いてるで！」

と叱咤激励され祖父の存在を実感する毎日でした。

五十二歳での襲名はまだ若く早いというお声もあるかもしれませんが、一日でも長く玉助という名前を使い、皆さんに知って頂き親しんでもらうのが大事なことはないかと思っております。

今回文楽では初めて、師匠であり父でもある吉田玉幸に四代目玉助を追贈させて頂きます。玉幸は平成十九年一二月に六十九歳で亡くなりました。息子の目から見ると大変頑固で生真面目な性格、それ故に不器用な人でした。後輩に熱く指導するあまり、口うるさく煙たがられていたかもしれせん。しかし、本当に裏表なく真つ直ぐな父の生き方も力強い芸も私は大変誇りに思っています。

とにかく基本が大事だという事を、入門してからずっと厳しく叩き込まれました。それは今になり本当に感謝しております。父が亡くなったから玉助襲名を考えていた時期があることを身内の方から聞いて知り、胸がいっぱいになりました。志半ばで亡くなった父の想いを考えると、四代目玉助を追贈させて頂きたいと強く思いました。

まだまだ未熟者でございますが、なお一層の精進を重ね、名前に恥じないよう一所懸命努力する覚悟でございます。是非とも応援を賜りたく、今後とも何卒末永くお引き立てくださいますようお願い申し上げます。

最近の活動風景

夏休み公演での解説風景



まち歩き「阪堺電車で巡るゆかりの地」 2017.9.24



11月公演での解説風景



「大阪あそ歩」への解説 2017.10.14



「くまモン」来場！ 2017.11.6



文楽応援団 東西と一ざい



- * 吉田幸助さんが平成 30 年 4 月大阪国立文楽劇場、5 月東京国立劇場小劇場での文楽公演で五代目吉田玉助を襲名されるとの発表がありました。
- * 豊竹呂太夫さんが平成 29 年 9 月 28 日「第 47 回 JXTG 音楽賞邦楽部門」を受賞されました。
- * 大阪歴史博物館で、特別企画展「世界に誇る大阪の遺産一文楽と朝鮮通信使一」が開催されました。
期間：平成 29 年 9 月 30 日（土）～ 11 月 26 日（日）
- * 阪神高速ミナミ交流プラザ（LoopA）で「11 月文楽公演に関する展示」が開催されました。
期間：平成 29 年 10 月 19 日（木）～ 11 月 7 日（火）
- * 吉田和生さんが平成 29 年 11 月重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されました。
- * 吉田和生さんが平成 29 年 12 月 1 日、愛媛県の「愛顔のえひめ文化・スポーツ賞」の文化特別功労賞を受賞されました。
- * 応援団 HP 来訪者数が 94,727 人、文楽応援団ツイッターのフォロワー数が 2,194 人になりました。（2017.12.9 現在）
- * 次回公演予定
東京：平成 30 年 2 月 10 日（土）～ 26 日（月）
大阪：平成 30 年 4 月 7 日（土）～ 30 日（月・休）
※ 4 月 19 日（木）休演

- 7/22 夏休み文楽特別公演初日。展示室解説、演目解説など、8月8日まで。
応援団通信第31号、3,000部発行。
「高津神社の小学生お泊り組30人に人形解説」担当:安藤。
- 8/19 【スタッフ会議】 出席:12人。
- 8/25 【第5回研修会】 前日準備。担当:安藤。
- 8/26 【第5回研修会】 出席:37人。
「折り紙教室」担当:関口。
「学習会」「義太夫節の構造について①」資料音読。準備:榊田。
- 9/ 2 【研修バスツアー】 第1回担当者打合せ。出席:4人。
- 9/ 7 【第5回研修会】 報告書発送作業。世話人:荒木、松井、目黒、安藤。
【第6回勉強会】「技芸員の系譜について」講師:後藤静夫先生。出席:23人。
- 9/21 【第7回勉強会】「刈苅集を聞く①」講師:後藤静夫先生。出席:19人。
- 9/24 【町歩き】「阪堺電車で巡るゆかりの地」猫塚・近松門左衛門碑・
住吉大社・安倍清明神社・阿倍王子神社など。参加:14人。
【研修バスツアー】 第2回担当者打合せ。出席:3人。
- 10/ 5 【第8回勉強会】「刈苅集を聞く②」講師:後藤静夫先生。出席:20人。
- 10/14 【スタッフ会議】 出席:11人。
「大阪あそびより解説依頼」8人。担当:油田(名)、今井。
- 10/19 【第9回勉強会】「刈苅集を聞く③」講師:後藤静夫先生。出席:17人。
【第6回研修会】 前準備。担当:荒木、安藤。
- 10/21 【第6回研修会】 出席:41人。「解説日程調整」
「11月公演演目説明」担当:藤田
「学習会」「義太夫節の構造について②」資料音読。準備:榊田。
「折り紙教室」担当:油田(名)。
【研修バスツアー】 第3回担当者打合せ。出席:4人。
- 10/22 【研修バスツアー】 台風21号接近中のため中止。
- 10/25 「11月公演演目リハー」講師:国立文楽劇場企画制作課。参加者:19人。
- 10/30 【応援団活動写真リハー作成】 担当:荒木、斎藤。
- 10/31 【第6回研修会】 報告書発送作業。世話人:松井、安藤。
- 11/ 2 11月公演初日前日準備。担当:安藤。
- 11/ 3 11月公演初日。展示室解説、演目解説など、11月26日迄。
- 11/11 【応援団通信第32号】 第1回編集会議。出席:4人。
- 11/13 NPO人形浄瑠璃文楽座より「ワコイ文楽」参加者へ解説依頼:1人。
担当:酒井。
- 11/14 NPO人形浄瑠璃文楽座より「ワコイ文楽」参加者へ解説依頼:42人。
担当:荒木、岡持、長、中西、羽田、安藤。
- 11/18 NPO人形浄瑠璃文楽座より「ワコイ文楽」参加者へ解説依頼:1人。
担当:長田。
- 11/23 【応援団通信第32号】 第2回編集会議。出席:3人。
- 12/ 9 【スタッフ会議】 出席:9人。
【応援団通信第32号】 第3回編集会議。出席:2人。
- 12/15 【第7回研修会】 前日準備。担当:荒木、安藤。
- 12/16 【第7回研修会】「解説日程調整」
「初春公演演目説明」担当:藤田。
「学習会」『心中宵庚申』を観て。
「折り紙教室」担当:関口。
【文楽劇場前「二つの石碑」清掃】
- 12/21 「初春公演演目リハー」講師:国立文楽劇場企画制作課。
【第7回研修会】 報告書発送作業。世話人:松井、安藤。
【応援団活動写真リハー作成】 世話人:荒木、斎藤。

文楽公演

平成30年3月

地方公演スケジュール

【主催】文楽協会 【後援】文化庁

ユネスコ無形文化遺産、人形浄瑠璃文楽。

演目【昼の部】「解説」『桂川連理柵』^{かつらがわれんりのしがらみ} 「六角堂の段」 「帯屋の段」 「道行朧の桂川」

【夜の部】「解説」『曾根崎心中』^{そねざきしんじゅう} 「生玉社前の段」 「天満屋の段」 「天神森の段」

地方公演チケットお問い合わせ先

| | | | | | |
|---------|-------------------------|---------------|----------|--|--------------|
| 3月3日(土) | おりなす八女ホール(福岡県八女市) | 090-4347-4292 | 3月18日(日) | 御殿場市民会館(静岡県御殿場市) | 054-289-9000 |
| 4日(日) | 戸畑市民会館(福岡県北九州市) | 093-562-2655 | | 【曾根崎心中のみ上演】 | |
| 9日(金) | 大田区民プラザ(東京都大田区) | 03-3750-1611 | 20日(火) | あましんアザール・オクト(兵庫県尼崎市) | 06-6487-0810 |
| 10日(土) | 府中の森芸術劇場(東京都府中市) | 042-333-9999 | 21日(水・祝) | 三重県文化会館(三重県津市) | 059-233-1122 |
| 11日(日) | 小田原市民会館(神奈川県小田原市) | 0465-33-1706 | 22日(木) | 京都府立文化芸術会館(京都府京都市) 【※23日(金)は昼夜の演目を入替】 | 075-222-1046 |
| 14日(水) | いわき芸術文化交流館アリオス(福島県いわき市) | 0246-22-5800 | 23日(金※) | | |
| 17日(土) | 姫路市文化センター(兵庫県姫路市) | 079-298-8015 | 24日(土) | | |
| | 【桂川連理柵のみ上演】 | | | | |

文楽応援団通信 第32号 2018年1月3日

編集・発行 文楽応援団(年2回発行予定)

連絡先 〒542-0073 大阪市中央区日本橋1-12-10

国立文楽劇場 事業推進課

TEL06-6212-5542(直通) FAX06-6212-1202